

所 陵

ISSN-0913-1906

No. 35

関西大学博物館彙報
平成9年9月30日発行

[SENRYO • KANSAI UNIVERSITY MUSEUM REPORT]



ローマ時代のガラス器 A Roman Glass Jar

目 次

『梵漢両字阿弥陀経』の雕板について	2
オアハカ地方博物館とモンテ・アルバン遺跡	4
サヘート（祇園精舎）遺跡復元模型の製作	6
企画展「川原寺裏山遺跡」の開催	8

関西大学博物館

〒564-80 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

Tel 06-368-1171 (直通)

FAX 06-388-9928

『梵漢両字阿弥陀經』の雕板について

網 干 善 教

平成9年4月関西大学図書館より関西大学博物館に資料の移管があった。そのなかに5枚の版本（一枚縦約85cm、幅約22.5cm、表裏共に2頁分）がある。全体では序4頁、本文65頁、奥付1頁のものであるが、移管のあったのはそのうちの20頁分である。その最後に經典首題である「梵漢両字阿弥陀經」と刻されている。そして奥付に「安永二年癸巳四月佛生日」とあり、「京寺町五條橋詰」の一行があって、その隣の一行の文字が削り取られているが、最後の「梓」という字が残っている。そこでこの削られた文字を龍谷大学、大谷大学、佛教大学所蔵本で調べてみると「額田正三郎梓」とある。そして別に「諸宗御書物所 京都書林 寺町五條上ル西側 額田正三郎」とある。また、佛教大学蔵本の復刻と思われる奥付に「大日本佛教書籍調進所 京都市五條通高倉東入 法文館 澤田友五郎 振替大坂四五五六番 電話下二一九〇番」とある。ただ、本学所蔵の版本では「額田正三郎」という氏名が故意に削られているが、その理由は分からない。恐らくこの版本が市場に出る時に削ったものと推察できる。

また、「刻阿彌陀經梵本序」の最後に「安永二年癸巳正月 南紀根嶺學頭僧正常明謹書」とある。

ここに彫刻された經典の漢訳部分は次の如くである。（原本は縦書き）

如是我聞一時薄伽梵舍衛國住於逝多林無
依食園此處虫指有字不見 大苾芻衆俱三十
莠百知戴 長老大聲聞皆歎所謂舍利子大
目乾連尊者戴

（呪）

如是等大聲聞菩薩摩訶薩 謂漫殊宝利童
真無能勝菩薩香衆菩薩常進菩薩不菩薩如
是等衆多菩薩摩訶薩梵忍生戴

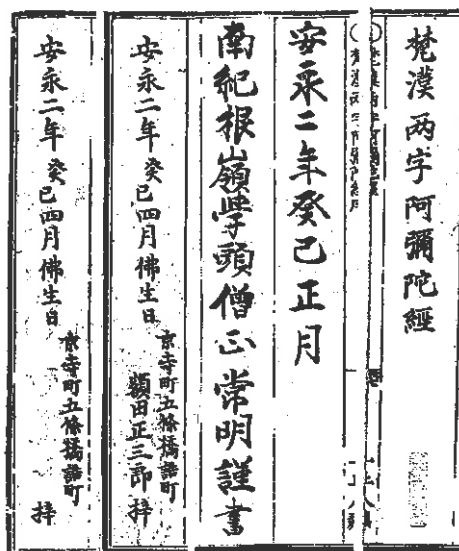
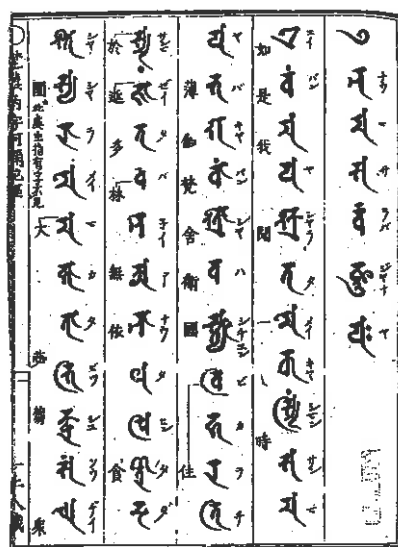
天子那夷百千爾戴 時薄伽梵壽具舍利子
有方分此佛三億百千佛國過樂有名世界其
中無量壽如來應正等覺今住持安隱法說彼
何意汝舍利子何因彼世界樂有是名彼之時

復舍利子樂有世界無有衆生身苦心無量如
是樂因由是因彼界樂有是復次舍利子樂有
世界七其多羅行鈴網及莊嚴普彼遍散四寶
名金之銀之吠瑠璃氐迦如是類舍利子佛國
功德莊嚴彼佛國復次舍利子樂有世界七寶
所成池八支具足水死滿平鳥欣異本ハ飯也
金沙布名曰金銀吠瑠璃氐迦彼池中普四方
四階道四寶名曰金赤珠七寶銀吠瑠璃氐迦
彼諸及普寶樹生七金銀吠瑠璃氐迦赤珠七
寶彼妙及池中蓮花生青青色青光青黃色黃
光黃赤色赤白白光白色光車輪量如是色類
舍利子佛國功德莊嚴普莊嚴彼佛國復彼戴
次舍利子彼佛國常奏天樂金色大塋悅彼佛
國三作夜三作日花雨雨天花其中衆生生彼
一前食憶百千佛禮世界去各各如憶百千花
散復如是世界如是色類舍利子佛國莊嚴功
德彼佛國復次舍利子佛國鵠孔雀彼作夜三
作日集各各以音說彼諸說根力覺聲出中彼
諸聲聞佛作意意生彼何意汝舍利子徧生彼
衆生不復如是彼何因不舍舍利子彼佛國無徧
生琰魔世無鳥衆無量壽如來所化法聲出如
是色類舍利子佛國功德莊嚴彼佛國復次舍
利子彼佛國彼多羅行彼諸鈴網風動妙意悅
聲出如名舍利子俱氐百千天上ニハ樂音彼
之妙意悅聲出如是如是舍利子多羅行彼諸
鈴網風動妙意悅聲出中彼諸人聲聞念身住
法念身住僧身住如是色類舍利子佛國功德
普莊嚴彼佛國彼何意汝舍利子何因是如來
無量壽彼之復次舍利子如來彼諸人無量壽
由是因是如來無量壽是名彼之舍利子如來
十劫現等覺彼何意汝舍利子何因是如來無
光名說彼之時復舍利子如來光無礙一切佛
國由是因如來彼之舍利子如來無量聲聞衆
所彼有諸不易作量說清淨如是色類舍利子
佛國功德普莊嚴彼佛國安堵本作諦乘說復
次舍利子若無量壽如來佛國衆生清淨菩
薩不轉一生繫彼舍利子菩薩不易說唯除無
量數如是數時復舍利子佛國衆生願作當彼
何故彼中以名如是色類人其集會得不少舍
利子善根無量壽如來佛國衆生有舍利子

善男子若善人或彼佛無量壽如來名号聞聞
 意作當一夜名夜若三夜若四夜若五夜若六
 夜若七夜若不散亂意作當是時彼善男子若
 善女人或於時當彼之於時已彼無量壽如來
 聲聞衆繞圍菩薩來前作住彼不顛倒心於時
 作當於時作已彼之是無量壽如來佛國世界
 是故以舍利子此義見意如是言我善男子若
 善女人或彼佛國願作當如名舍利子言稱讚
 如是如是舍利子東方名佛須彌幢名佛大須
 彌妙幢名佛如是上首舍利子東方競伽河沙
 如佛各各佛國舌相覆成實言作信汝等不
 思議功德稱讚一切佛所護名法門如是南方
 月日燈佛名聞光名佛大炎肩名佛高登名佛
 無量精進名佛如是上首舍利子南方競伽河
 沙如是佛世尊各各佛國舌相覆成實言作
 信汝等不思議功德稱讚一切佛所護名法門
 如是西方無量壽名佛無量名佛無量幢名佛
 大光名佛大寶幢名佛清淨光明佛如是上
 首舍利子西於方競伽河沙如佛世尊各各
 佛國舌相覆成實言作信汝等不思議功德
 稱讚一切佛所護名法門如是北方於方焰
 肩名佛音名佛音名佛音聲名佛難名佛日
 生名佛網明名佛光光作名佛如是上首舍
 利子北於方競伽河沙如是佛世尊各各佛
 國舌相覆成實言作信汝等不思議功德稱
 讚一切佛所護名法門如是下於方師子名
 佛名聞名佛名聞光名佛持名佛法幢名佛
 如是上首舍利子下於方競伽河沙如是佛
 世尊各各佛國舌相覆成實言作信汝等不
 思議功德稱讚一切佛所護名法門如是上
 於方梵音名佛宿王名佛帝幢焰王名佛香
 上名佛香元佛大焰肩名佛寶雜色花嚴身
 名佛婆羅樹王名佛寶花德名佛一切義見
 名佛妙高山名佛如是上首舍利子上於方
 競伽河沙如是佛世尊各各佛國舌相覆成
 實言作信汝等不思議功德稱讚一切佛所
 護名法門彼何意汝舍利子何因此門一切
 佛所護是名若有舍利子善男若女人或此
 法門名号門彼諸佛世尊名号持當一切佛
 所護得當不退立得當是故以舍利子信信
 勿疑歟虫損難見
 我佛世尊若有舍利子善子善女或彼佛無
 量壽如來佛國心願作當已作見作若一切
 皆不退轉得當於中佛國生生若生若是故
 以舍利子信善子善女三及彼佛國心願生
 當名舍利子言如是彼諸佛諸世尊如是思
 議功德稱讚如是如是舍利子我佛世尊

如是不思議功德稱說甚難行世尊釈迦牟尼
 能仁王作堪忍於世界現等覺一切世間難信
 法說劫濁中衆生濁中見濁於命濁於煩惱濁
 中舍利子最難行我堪忍世界現等覺世間難
 信法說衆生濁見濁煩惱濁命濁劫濁此言佛
 意意壽具彼苾芻彼及菩薩天人阿修羅乾闥
 婆等世間佛說歡喜樂妙莊嚴名大乘經
 梵漢兩字阿彌陀經

この版本の一部が関西大学博物館資料として
 所蔵することを開示し、紹介しておきたい。



オアハカ地方博物館とモンテ・アルバン遺跡

阿 部 公 子

メキシコはオアハカ州。かつてサポテカ族やミシュテカ族がその勢力を誇った地域だ。現在、近代都市としてその名が定着したメキシコシティと比較すると、時の流れは緩やかに、古き良き時代を継承している、そんな地方都市がオアハカだ。オアハカ州には、現在でも先住民であるインディオが、100万人ちかくも居住している。インディオの祭り、グラゲツツァ祭りが、毎年7月後半の2度の月曜日に行われるなど、歴史を温め現在に至るまで守ってきた。

歴史の町オアハカには、小規模ではあるが、独特な博物館が数多く点在する。中でも最も規模が大きく、地元の人々に愛されている博物館は、サントドミンゴ教会の左側に隣接するオアハカ地方博物館である。サントドミンゴ教会は、1575年から約一世紀かけて建造されたバロック建築の教会である。現在でも、キリスト教徒の礼拝の場として、多くの人々が訪れる。

オアハカ地方博物館は、小規模ながら貴重な資料を所蔵している。サポテカ文化等、オアハカ州を中心とした文化圏の歴史遺物を中心に、中庭を囲んで展示室がU字型に3面連なっている。なかでも圧巻なのが、モンテ・アルバン遺跡第7号墳墓からの出土遺物である。

モンテ・アルバン遺跡は、オアハカの南西約

9 km、緩やかな丘陵の頂上にそびえ立つ古代遺跡である。モンテ・アルバンの歴史は、紀元前7世紀に遡る。オルメカ文化を背景にオアハカ盆地一帯に文化が発祥し、モンテ・アルバンは、オアハカ盆地一帯の中心的存在として君臨した。

オアハカ盆地一帯の文化圏の変遷は、先スペイン期に、5期の時代区分によって大別される。モンテ・アルバンは、第3期（紀元100～700年）に、サポテカ文化の首都的存在として、最盛期を迎えた。当時のサポテカの支配域は、モンテ・アルバンを中心として、約40km²に及んだという。また、第3A期（紀元300～500年）には、オアハカ盆地一帯の文化圏は、テオティワカンの文化的影響を受けた。モンテ・アルバンの遺構・遺物の随所にテオティワカンの影響が看取出来る。

しかしながら、第4期から第5期（紀元800年頃～）へと向かうにつれ衰退の兆しを見せ、モンテ・アルバンは第4期の頃には既に、かつての首都としての機能は消滅し、埋葬の場と化する。この頃、ミシュテカの政治的・文化的影響下で、芸術はミシュテカ形式へと傾倒していくこととなる。

第7号墳墓は、ミシュテカの支配下にあった、第5期の遺構である。紀元8世紀以降建立の祭



サントドミンゴ教会(中央)とオアハカ地方博物館(左手)



モンテ・アルバン遺跡(遺跡南部を臨む)

祀センターの地下から発見された。第7号墳墓は上層階級の人物の墓であると考えられており、他に2体の人骨が共に埋葬されている。またおびただしい数の埋葬品も出土した。黄金や銀の装飾品、石製品、翡翠製品、文字と暦を施した精巧な骨製品、トルコ石によって装飾された頭蓋骨等、その数は500に至る。これらの中の主な遺物が、オアハカ地方博物館に展示されているのである。

オアハカ地方博物館には、第7号墳墓からの出土遺物以外にも貴重な資料が揃っており、サポテカ・ミシュテカ文化を中心とした歴史遺物が地域別に2室にわたって展示されている。彼らの文化の緻密さ・複雑さに感嘆しながらも、地域毎の特徴を観察するのは大変興味深い。展

示の順路は、新しい時代から古い時代へと、時間的に逆行するように構成されている。時代を遡るべく一歩一歩文化の起源へ足を運ぶのも又一興、といったところだろうか。順路の途中にメキシコにおける民族・文化の変遷の説明パネルが設置されており、一連の民族・文化の理解に一役かっている。

オアハカには、オアハカ地方博物館のほかにも壁画家、ルフィノ・タマヨの個人コレクションである考古学収集体を展示したルフィノ・タマヨ博物館、モダン・アート美術館等、多種多様な博物館・美術館がある。そのほとんどが、中心街ソカロとその周辺に集中している。また、多数の遺跡がオアハカ周辺に点在する。これらの博物館・遺跡の紹介は、紙面の都合上割愛させて頂きたい。しかしながら、オアハカ州を訪問する機会には、是非これらの博物館・美術館にも遺跡探訪とともに立ち寄って頂きたい、と思う次第である。



館内展示室の風景



第7号墳墓出土の装飾された頭蓋骨

サヘート（祇園精舎）遺跡復元模型の製作

吉田秀樹 米田文孝

1986年、関西大学は創立百周年を迎え、各種の記念事業が立案・実施された。これらの一環として、インド共和国所在サヘート遺跡の総合学術調査も策定された。現地調査は前後4か年に及んだが、その調査成果は1997年3月、関西大学から、『祇園精舎』として刊行された。

ところで、この種の大規模遺跡（史跡指定範囲だけで約10万㎡）の調査においては、遺跡全体の景観・構造を把握し理解する目的から、航空写真の利用が今日的かつ重要である。ただし、サヘート遺跡ではネパール王国との国境線に近接していることなど、諸般の事情から新規の撮影も含めて、航空写真の利用が困難である。

このような現状から、今回の調査報告ではコンピュータ・グラフィックスで遺跡全体像を作成し、併せて遺跡復元模型を製作・寄贈していただいた。特に、遺跡復元模型は学術的な観点からのみならず、広く遺跡を視覚的に直感・理解できるという観点からも重要であり、その寄与するところは多大である。（米田文孝）

縁とは不思議なもので、「考古学公開講座」に何度か出席したのがきっかけで、今回、祇園精舎の全体模型を関大博物館に寄贈させていただくことができました。私は模型作りが趣味で、それが興じて模型製作も一部取り入れた小さな会社を営んでおります。今回の作業は、大変有意義な事でした。

平成7年6月頃、博物館の方から祇園精舎の模型を作らないかと、1/1000の測量図面をいただき、軽い気持ちでお受けしたのです。図面を見れば見るほど、この地形がほとんど起伏のない土地であることがわかりました。現地を見たこともなく、資料は数枚の遠景写真と気球からの上空写真、それと測量図面だけです。遠景写真からは、広大な平原にブッシュと木々に覆われた状態であることしかわからず、頼りになるのは測量図面のみでした。

当初は、3週間ほど図面と睨めっこの状態でした。ここはこう作ろう、この表現はこの材料を使おう、等々頭の中にプランを思い浮かべて



写真1 サヘート（祇園精舎）遺跡復元模型全形

いたのですが、この段階で作業を一時中止しなければならなくなりました。持病の心臓病で入院、そして手術することになったからです。元々、この作業は会社の営業外で行うため、仕事が終わった夜の私一人の趣味の世界です。そのため、入院中は従業員に作業をたのむ事はできませんでした。

結局、退院後少し涼しくなった平成7年9月ごろから作業再開となりました。台枠自体は入院前、大工さんにがっしりしたものを頼んでいたもので、まずは等高線ごとに分割して、地形の製作にはいりました。材料は、加工のしやすさから0.5mm厚の特殊プレス紙を使い、測量図の等高線ごとに切り抜き、貼り合わせていきました。博物館からは1/500の縮尺で依頼されていたので、実際の高低差は0.5mmごとに25cmとなります。

全等高線が貼り終わったのは、平成8年3月末でした。立体感もよく出ていて、思いどおりの仕上がりになりました。次の作業は、貼り合わせた等高線の段差を合成樹脂のパテで埋めて、全体をなめらかに整形することです。等高線のラインはなくなり、のっぺりとした平地になりました。いままでの作業の細かさがどこにも感

じられなく、おもしろくもなんともないものになりました。どう見ても変化のない、ただの平地です。どのように表現したらもう少し立体感がだせるのか、毎夜ながめてばかりの日々が続きました。

気分一新のため、煉瓦積み各復元遺構を作ることになりました。博物館へ伺い、遺構や地形についての助言を受け、できあがった遺構模型を平地に並べると、それらしく見えてきました。立体感は、塗装とウェザリングで表現することにしました。夜な夜な塗料の臭いと、塗装のコンプレッサーの騒音で、ご近所に迷惑をおかけしました。芝生、道、畠、等々作りこんでいき、塗装も何回かやり直して思いどおりの色ができたのが、10月の初めでした。最後に、合成樹脂で水を表現して、ほぼ完成しました。10月中旬、博物館に無事搬入することができました。

一つの物を作り終え、ほっとした安堵感と同時に、なにか一抹の寂寥感にとらわれました。元々、物を作っている時が、精神も体も充実している体質なのです。今回、博物館に展示していただける事に感慨無量です。このような機会を与えてくださいました網干教授はじめ大学の皆様、有り難うございました。（吉田秀樹）



写真2 サヘート(祇園精舎)遺跡復元模型中央部拡大

関西大学博物館開館三周年記念企画展 「川原寺裏山遺跡」の開催

本館では、関西大学博物館開館三周年記念企画展として、「川原寺裏山遺跡」を平成9年4月7日から6月13日まで開催しました。期間中、2,336名の入場者があり、盛況のうちに企画展を終了できましたことを厚く御礼申し上げます。

川原寺は、白鳳期の飛鳥寺・大官大寺とならぶ大寺で、奈良県高市郡明日香村字川原に所在し、昭和30年に発掘されていますが、創建年代などよくわからない部分の多い寺として知られています。今回展示した資料は、川原寺西北の丘陵斜面にある川原寺裏山遺跡から出土したもので、昭和49年に本館館長



塑像天部頭部



展示解説する網干善教館長と来館者

網干善教教授と本学文学部考古学研究室の学生を中心とした調査団により発掘されました。今回、丈六佛や天部、小像などの塑像や、三尊埴佛や獨尊埴佛、緑釉埴など、白鳳期の佛教美術上貴重な資料を展示しましたが、特に優美な塑像天部頭部が来館者の注目を集めました。

編集後記

第35号をお届けします。

今号は、網干善教博物館長、大学院生の阿部公子氏、吉田彫刻の吉田秀樹氏、考古学研究室の米田文孝助教授にご執筆いただきました。また、本文にあるとおり吉田秀樹氏には、貴重な模型資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

本年は、博物館開館3周年にあたり、企画展「川原寺裏山遺跡」を開催しました。期間中、多数の見学者にご来館いただき、好評を得ました。

同時に、記念事業として前・後期12回に拡大して開講しています「考古学入門」講座も、約400名の方々に受講いただいています。

表紙の写真は「ローマ時代のガラス器」で、ペリケーと呼ばれ、主として酒を入れるために用いられた容器です。素材は堅緻な良質の深緑色のガラスを使っていますが、長く地中にあったため、いわゆる「ローマングラスの銀化」が表面に顕著にあらわれ風味を醸しだしています。西暦3世紀頃のもので、出土地は不詳です。

(M)